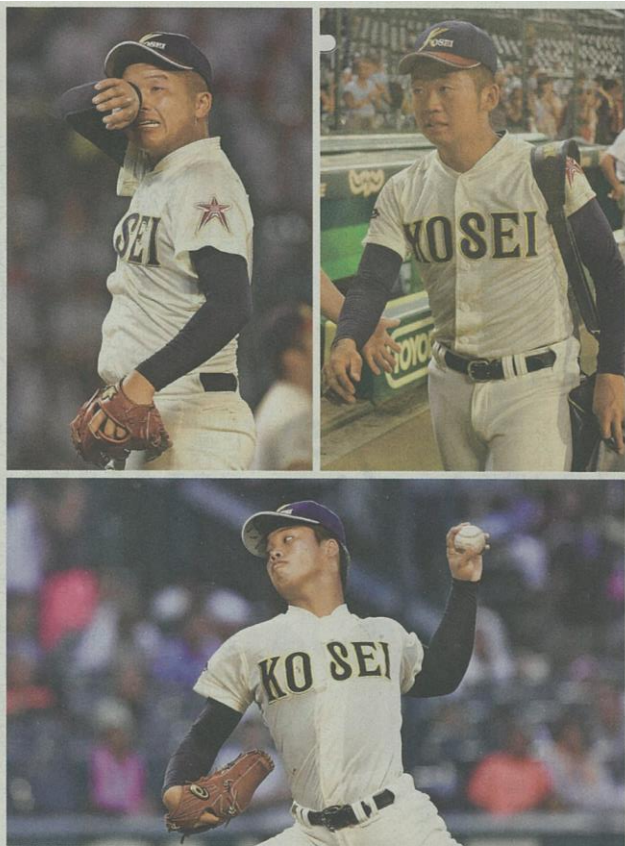


# 光星16強ならず

## 3投手粘投 聖地に足跡



龍谷大平安を相手に粘投を見せた八学光星の3人。右上が福山優希投手、左上が中村優惟投手、下が成田太一投手=15日、甲子園

甲子園球場で15日行われ、延長戦を制した初選手権の2回戦で、龍谷大平安(京都)と対戦した八学光星。延長戦を制した初選手権の2回戦で、龍谷大平安(京都)と対戦した八学光星。延長戦を制した初選手権の2回戦で、龍谷大平安(京都)と対戦した八学光星。延長戦を制した初選手権の2回戦で、龍谷大平安(京都)と対戦した八学光星。

三回に連打を浴びて、無念の途中降板となった。「情けない投球をしてしまった」と試合後、大粒の涙が止まらなかった。無死満塁の場面から、マウンドを引き継いだ成田投手は直後に右前打で2点を失ったが、以降の3イニングは安打を許さず好投。ただ、七回に相手打線に捕まると「踏ん張れなかった」と落胆した。

3番手・中村投手も相手の勢いを止めることはできず、終盤の2イニングで6失点を喫した。福山投手は「練習量はチーム1番」と光星ナインが口をそろえる努力家。成田投手は「最後の夏に間に合わせる」と、負けん気の強さだけが克服した。入部当初は決して目立つ選手ではなかったという中村投手は地道な練習を積み重ねて背番号を勝ち取った。

これまでエースを争うライバルだった3人。お互いに意識しながらも、厳しい練習を乗り越えてきた。中村投手は「自分1人ではここまで来れなかった。自分の力を出し切れた」と仲間感謝しながら、高校野球生活を振り返った。(金濱千優希、藤野武)

### 「お疲れさま」 光星スタンドナインねぎらい



八学光星ナインに声援を送る応援団=15日、甲子園球場

15日、甲子園球場での全国高校野球選手権大会で2回戦を戦った八学光星。龍谷大平安に1-14で敗れたものの、3塁側アルプススタンドで見守った応援団は「よくやった」「お疲れさま」と最後まで諦めずにアピールしたナインにねぎらいの言葉を掛けた。

生徒や教員ら約160人の応援団と部員の保護者がメガホンを手に声を枯らした。序盤から追い掛ける展開だったが、光星がアウトを取るたびに「オッキー」「いいぞ」と盛り上げた。

応援に駆け付けた三村申

吾妻森原知事は「高校野球の魅力はやっとっぱりこれだよ」とチームの一体感に感嘆していた。

持ち前の打線が振るわなまま終盤に差し掛かり、スタンドも重苦しい雰囲気。それでも、八回に矢野虎弥選手が邪飛を気迫の滑り込みで好捕すると、「まだまだ終わってないぞ」と応援の熱を一気に高めた。

最後まで声を張り上げた観客たち。試合終了とともに3年生の夏が終わわり、応援団長を務めた秋谷和希さん(16)は「結果は残念だったけど、最後まで諦めずに頑張ってくれたナインにありがとうと伝えたい」としみじみ語った。(藤野武)